



自分らしく生きられる社会を創る
(株)ソーシャルスタイル代表取締役
社会脳を軸に人と組織を支援する
ブレインアナリストプロ

今、なぜ私たちは、これほどまでに疲れているのでしょうか。人事評価制度を整え、働き方改革やDX(デジタルトランスフォーメーション)も進めた。それでもなお、職場では孤立する社員が増え、出社していても本来の力を発揮できない「プレゼンティーズム」が広がっています。うつやメンタルダウンによる休業、退職代行会社から突然届く離職の通知。ハラスメントを恐れて指導を控えれば、管理職の負担だけが一方的に積み重なっていきます。

自分らしく生きられる社会を創る(株)ソーシャルスタイル代表取締役社会脳を軸に人と組織を支援するブレインアナリストプロ

なぜ組織の活力は戻らないのか。この背景には、人と人が関係性の中で生きるために、脳の働き「社会脳」(共感し、信頼し、役割を分かち合う機能)が、社会の急激な変化に追いついていないという構造的な問題があります。

変化を加速させたのは生成AI(「正しさ」をいくら積み上げて痛感したのは、制度やルールといった「正しさ」をいくら積み上げても、人は必ずしも元気にはならない

翌年、運命を変える一冊目に出会いました。それは、働きがいや生きがいの根幹である「心のあり方に

育てる」この「*lS*」は夫婦の合言葉にとどまりず、出会うすべての人にも影響し、二年後に「社会脳」を活かすキャリア教育に出合つきました。

人は変われる、関係性も変えられる

「社会脳」から考える、自分らしく生きられる社会

効率化を突き詰めたはずなのに、

(人工知能)の台頭です。事務作業

や調査、検討、企画業務などが瞬時に処理され、私たちは「コスパ」「タイプ」を競い、意思決定のスピードを求められます。しかし、判断

といふ事実です。むしろ、関係性が疲弊すればするほど制度は形骸化

の「動物脳」と、他者と協力し意味を見いだす「社会脳」があります。

私は強い「問い合わせ」を抱くようになりました。

私は強い「問い合わせ」を抱くようになりました。

私は強い「問い合わせ」を抱くようになりました。

私は強い「問い合わせ」を抱くようになりました。

だからこそ、人は変われる。社会

脳を意識すれば、関係性も必ず変えられます。この連載では「社会脳」

といふ視点から、自分らしく生きら

れる社会へのヒントを皆さんと共に探つていきたいと思います。

鈴木 光伸